

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300428
法人名	有限会社 慈恵会
事業所名	グループホーム花乃苑
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大久保78 (電話) 0884-44-1331

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(平成21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤: 10人、非常勤: 7人、常勤換算: ひまわり 7.4人 さくら 5.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	共益費: 15,000円、その他: 実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(平成21年1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 75.1 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村上内科外科医院、八幡歯科
---------	---------------

徳島県 グループホーム花乃苑

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然豊かな田園の中にあり、広い敷地内周辺には季節の花が植えられている。木造平屋建ての内部は、利用者が過ごしやすく整理整頓されている。居室はすべて南向きで、外の景色が広々と眺められ、自然の移り変わりを感じられる。職員は利用者一人ひとりの特徴や思いを理解して優しく穏やかに接し、共にゆったりと過ごしている。経営者や管理者は地域とのつながりを大切にして様々な交流の機会を設けるとともに、事業所を研修の場として地域に提供している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回評価における改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	全職員は評価の意義や目的を理解し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、運営者及び職員が参加し、2か月に1回開催している。会議では参加者から積極的な意見が出され、事業所の運営や利用者へのサービスの質の向上などについて検討されている。会議の記録は適切に管理されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	運営者や職員は、機会あるごとに利用者や家族に対し、気軽に意見や希望を出してもらえるよう伝えている。家族会ではアンケート用紙を配布し、自由な意見を書いてもらえるようにするなど工夫し、出された要望等は速やかに運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
	運営者や職員は共に地域を大切に考え、事業所前の田畑一面に、ヒマワリやコスモスなど季節の花を育てて近隣の人達に見てもらうなど、工夫しながら交流の機会をつくっている。幼稚園児が育てたさつま芋掘りに参加させてもらったり、地域の複数の同業者と行事に参加し交流も図っている。また近隣の方たちと日常的に声をかけあえる関係が築かれている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域とのつながりを保ちながら、自分らしく過ごせることを大切に考え、「ゆったり、楽しく、いっしょに、今のあなたを大切に」という事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念について話し合い、日々のケアにおいて実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者や職員は共に地域を大切に考え、事業所前の田畑一面に、ヒマワリやコスモスなど季節の花を育てて近隣の人達に見てもらいながら交流の機会をつくっている。幼稚園児が育てたさつま芋掘りに参加させてもらったり、地域の複数の同業者と行事に参加し交流も図っている。また近隣の方たちと日常的に声をかけあえる関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義や目的を理解し、自己評価に取り組んでいる。また、評価を活かしてさらなるサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、運営者及び職員が参加し、2か月に1回開催している。会議では参加者から積極的な意見が出され、事業所の運営や利用者へのサービスの質の向上などについて検討されている。会議の記録は適切に管理されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口に出向いてホームの実情を伝えたり、電話で運営についての相談をしたりするなど連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3か月毎に発行する「苑だより」には、日頃の利用者の暮らしぶりを掲載し、家族に送付している。また毎月、利用者の健康状態や預かり金の使途報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、気軽に意見や希望を出してもらえよう伝えている。家族会では、アンケート用紙を配布して要望の把握に努めている。出された要望等は、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットとも馴染みの関係によるケアを基本とし、異動は最小限に留めている。やむをえない離職等の場合は引き継ぎを十分に行うなどし、利用者への影響を和らげるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年間計画をたて、職員の段階に応じて順次、受講できる仕組みがある。また、研修の情報提供があった際には積極的に受講できるようにしている。研修の内容は、資料とともに記録を残し、職員間で情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の複数の同業者と意見・情報交換するなど交流に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、行事などを通じて相互訪問を行い、利用者や職員間の交流の機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始に当たっては、事前に本人や家族にホームを見学してもらったり、2日間の体験入居を利用してもらうなど、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、家族のような関係を築き、お互いをねぎらって言葉をかけ、共に支え合って過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者の言葉に耳を傾け、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者の表情やしぐさから思いを汲み取り、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、利用者や家族の意見や希望を把握して関係者間で話し合い、本人がより良く暮らせるよう検討して作成している。計画書には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定められた期間ごとに、利用者の状態に変化が生じた時に、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、医療や健康管理面において安心感が得られるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じた、かかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、本人や家族、かかりつけ医等と入居時に相談し、方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については、職員間で確認し合い徹底している。職員は利用者の誇りや尊厳を損ねるような言葉かけや対応をしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりがその日、その時をどう過ごしたいかを汲み取り、それぞれのペースに合わせて希望にそった暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れた季節感のある献立をつくり、食事を楽しめるよう支援している。利用者も調理や後片づけ等の役割を持ち、職員と共に和やかに行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に応じ、いつでも入浴することができる。職員は言葉かけを工夫するなどして入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりのできる力を見出し、盆拭きや手すり拭きなど日々の暮らしの中で無理のない役割りを持ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	豊かな田園の中を散歩し、近隣の人たちとふれ合っている。またイベント会場の見学などに出かけて、ホームに閉じこもらない暮らしを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守り等、安全への配慮をし、日中は玄関に鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、利用者と職員が一緒になって年2回、実施している。地域との連携も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の栄養士が作成した献立表に基づいた栄養管理を行っている。利用者一人ひとりの食事と水分摂取量を記録し、関係者間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節の花が飾られる等、気持ちよく過ごせるよう整えられている。開放的な窓から広々とした田園風景が眺められ、明るい日差しが差し込んでいる。リビングの大きなソファや炬燵のある畳の間、テーブルと椅子が置かれた廊下の端のスペースなど、利用者がそれぞれ自由にくつろげる場所がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や利用者が生けた花などを飾り、思い思いの居室づくりをしている。スギ板を使った各居室の腰張りがあたたかい雰囲気をかもし出している。		